

経営比較分析表（令和6年度決算）

山形県米沢市 米沢市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	38	対象	透訓	救 臨 地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
74,629	24,107	非該当	非該当	7 : 1

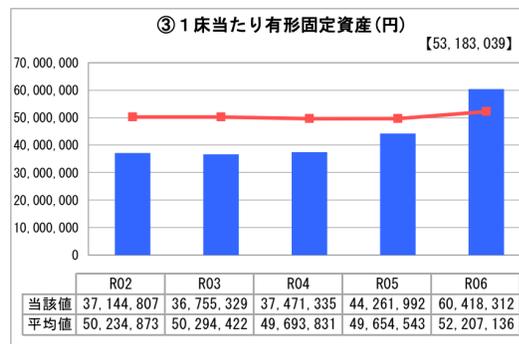
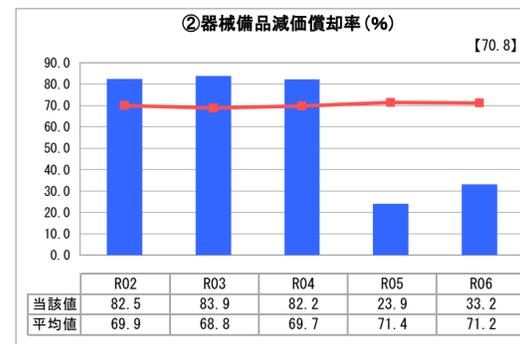
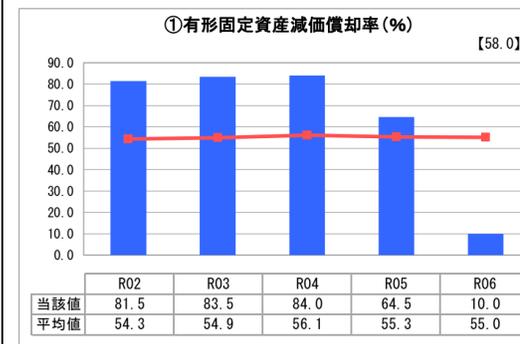
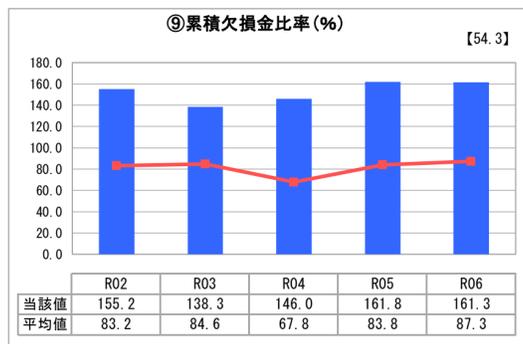
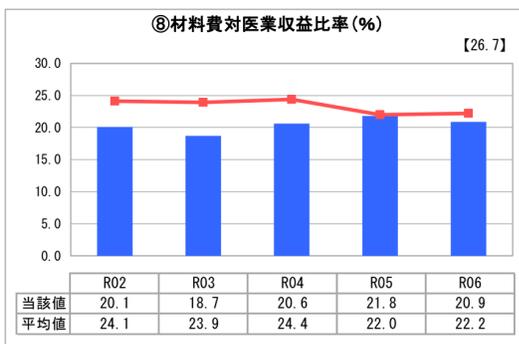
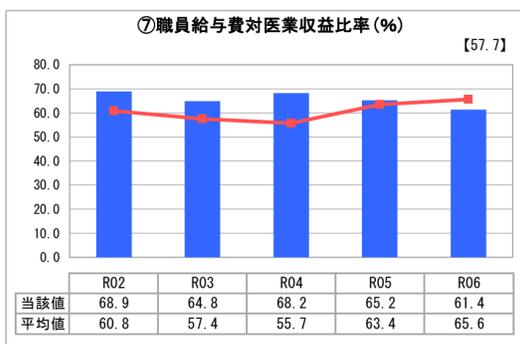
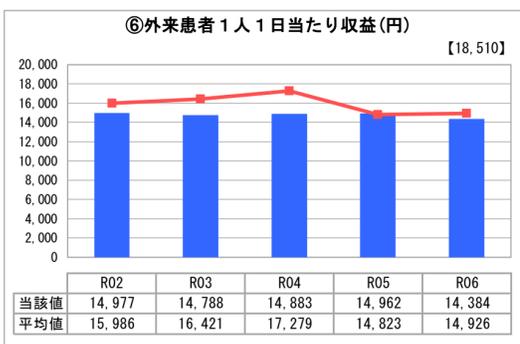
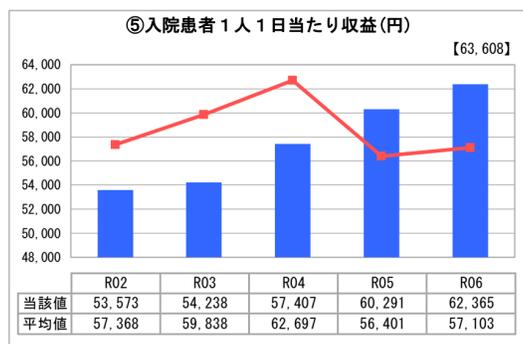
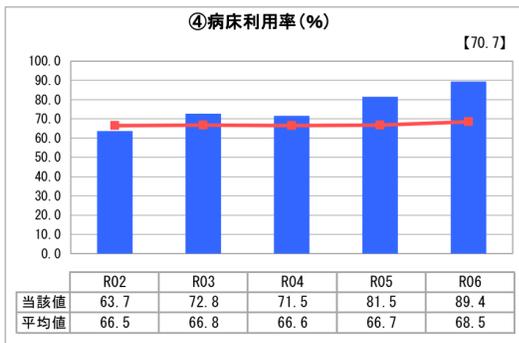
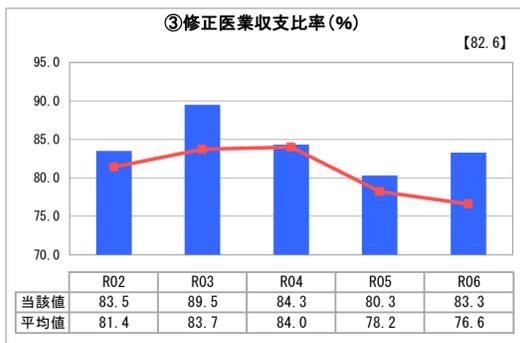
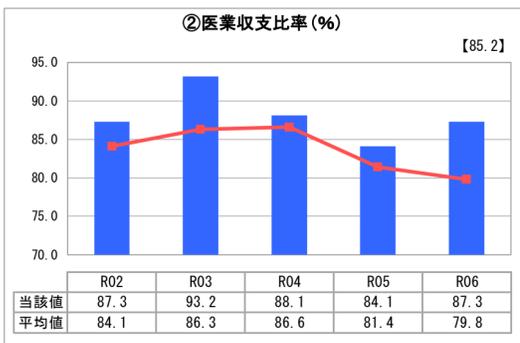
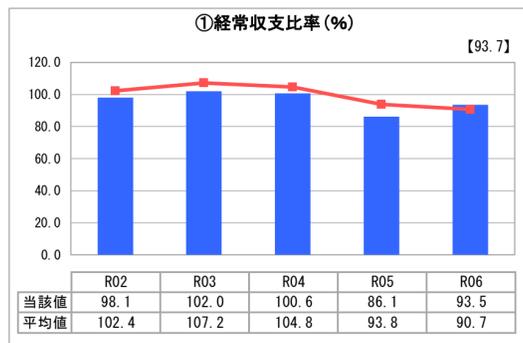
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
263	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	263
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
255	-	255

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
令和5年度	-年度	-年度

I 地域において担っている役割

米沢市では、地域医療構想の考え方を踏まえて、共に急性期医療を担っていた米沢市立病院と三友堂病院が機能分化、医療連携を進め、現在は米沢市立病院は急性期医療を、三友堂病院は回復期医療の役割を担っている。
当院は、民間医療機関による提供が困難な高度医療、救急、小児、周産期等の不採算部門の医療を提供している。特に救急においては、24時間365日医療提供体制を整え、合わせて平日夜間・休日診療を行っている。
また、臨床研修病院としての教育機関の役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新病院の開院により、患者数が増加、また、急性期に特化した医療提供を行ったことにより入院患者1人1日当たり収益(⑤)が増加したことなどから、令和5年度と比べ、経常収支比率(①)・医業収支比率(②)及び修正医業収支比率(③)が上回った。
許可病床の減床もあり病床利用率(④)が大きく伸びたが、外来患者1人1日当たり収益(⑥)は前年度を若干下回った。職員給与費対医業収益比率(⑦)、材料費対医業収益比率(⑧)については前年度を下回り、また、類似病院平均値を下回っている。
しかし、累積欠損金比率(⑨)はほぼ前年度と同値であり、さらなる経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

新病院の開院により有形固定資産減価償却率(①)は大幅に減少し、また、器械備品減価償却率(②)についても類似病院平均値を大きく下回っている。
1床当たりの有形固定資産(③)は新病院へ移行時の病床数の減床、新病院開院により建物の価額が増加したことにより増加している。
新病院開院により老朽化の状況は改善したものの、新たに建物や医療機器の減価償却が始まることにより、一時的に経営状況が悪化する事も考えられるが、経営強化プランに基づき確実に取組を進めていくことが必要である。

全体総括

人件費の上昇や物価高騰に伴う経費の増に加え、新病院の開院に伴う旧病院建物の除却費を特別損失に計上するなどにより、令和6年度決算においては、549百万の純損失となった。
入院患者1人1日当たり収益が増加しているものの、今後も人件費や物価高騰による経費の増が見込まれることから、さらなる収益の増加、費用の削減を図り、経営強化を総合的に進め、黒字化に向けて経営努力が必要である。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。